

先生たちの お薦め本



森先生のお薦め

～ vol.2 4組副担任 ～
福音館書店 安野光雄 『旅の絵本』

『旅の絵本』という本は文字の無い完全な絵本です。旅人が旅する様子を柔らかな雰囲気絵で表現しています。



旅人が訪れる町や道で出会う人々の生活模様が生き生きと描かれています。いろいろな人々の暮らし、生活の形が伝わってきます。子供っぽく思わずに、ぜひ書店等で手に取ってみてください。心がほんわかしますよ！



ある本の一行

「美しい刃になって走る
自分をイメージして、
薄く鋭く研ぎ澄ませ」

三浦しをん
『風が強く吹いている』



箱根駅伝に出るための予選会前夜にキャプテンの清瀬が部員に語り掛ける場面での一言です。

この一行はすごく私の心に響きました。強くなっても鋭くないと敵を倒せない。でも鋭くするために一気に研ぐとポキッと折れてしまう。少しずつ少しずつ集中して心を研いでいくんだ。これは人生においても同じだなと感じました。大事な場面で私を助けてくれる一行です。

北折先生のお薦め

～ vol.3 5組副担任 ～
新編文庫 ドストエフスキー 『悪魔』

自称改革者やカリスマと呼ばれる者が見ていないもの、あるいは、あえて無視しているものが何かよく分かります。

地に足を着けていない改革がどれほど非人間的なものか、また、キャッチフレーズやきれいな言葉に惑わされないことがいかに大切かを教えてくれると思います。一方で、ロシアに生きる女性達が貴族・庶民を問わず、とてもたくましい点も魅力です。



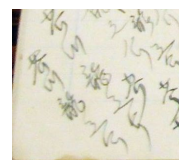
有名作家エピソード

太宰治

太宰といえば、「走れメロス」とか「人間失格」を書いた昭和の作家です。少し前に大泉洋が太宰役で主役の映画も作られました。

そんな文豪の太宰さんですが、明治に生まれ、大正時代に活躍した「芥川龍之介」の大ファン！！ひたすら芥川龍之介の名前をノートに書いていたことが死後に発見されました。

自分の好きな人の名前をノートに書くことは皆さんもしたことがあると思いますが、昭和の文豪も同じですね。



荒川先生のお薦め

～ vol.4 7組副担任 ～
角川文庫 沖方丁 『天地明察』



休校中、いつもより長めの作品を読みたいなと思う人におすすめ。すいすい読めます。江戸時代の科学者・数学者が主人公です。岡田准一主演で映画化もされました。

歴史小説というと、お殿様やお姫様、剣豪ばかりが登場するのかと思いきや、人間的に魅力的な人がいっぱい出てきます。探究心旺盛な人が、苦勞して曆をつくっていく過程がとても面白い。ライバル心や恋心も織り込まれていて、楽しめますよ。